

DAIKEN グループ
CSR 報告書 2013



大建工業株式会社

本社 〒530-8210
大阪市北区堂島1丁目6番20号(堂島アバンザ)22F
<http://www.daiken.jp/>



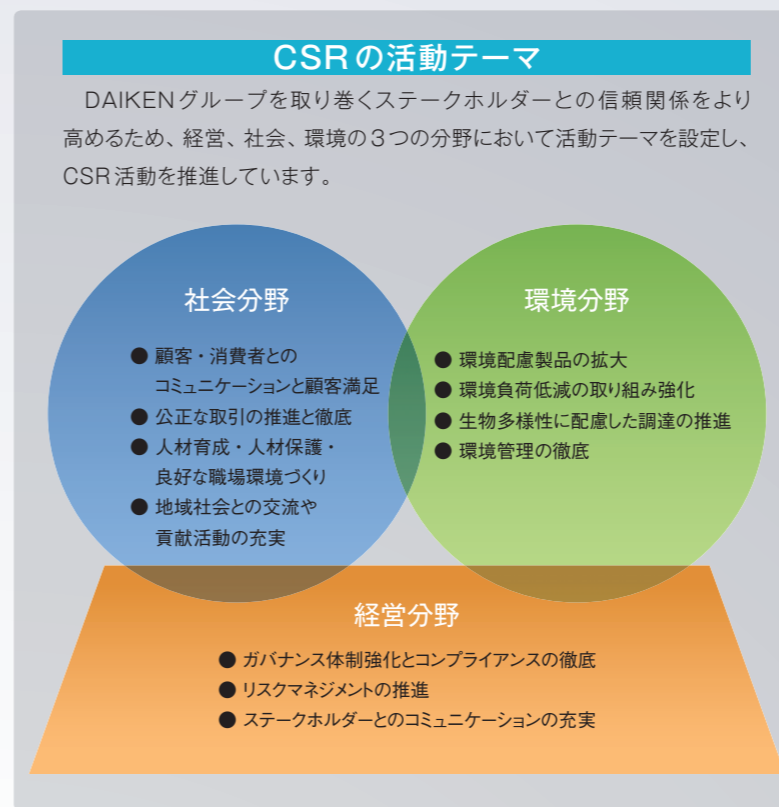
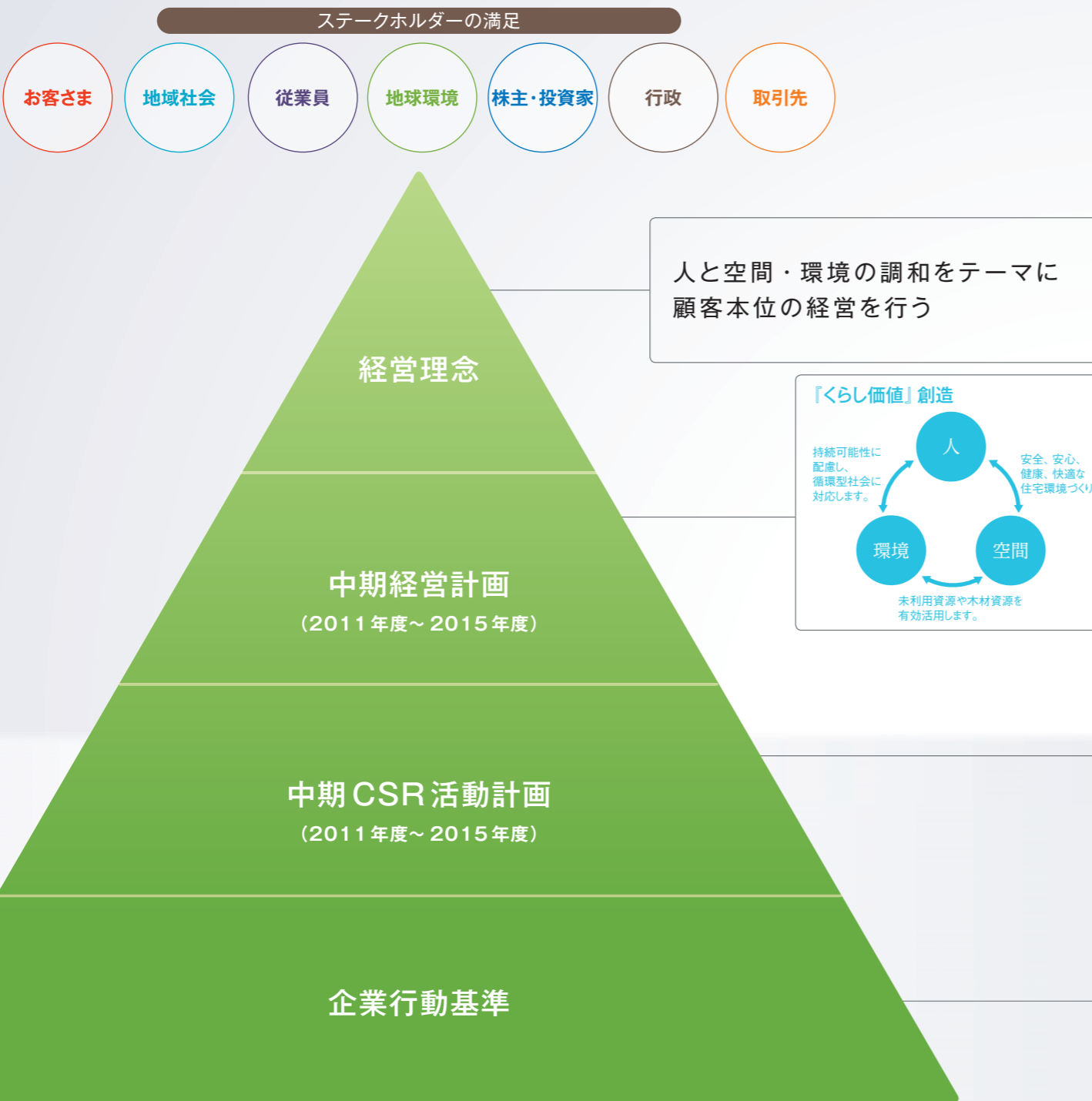
発行 2013年8月

[175-07] CS2013.08 [N/N] (P7.1-05)

大建工業株式会社

人と空間と環境の調和を、 環境発想のモノづくりで実現する。 それが、DAIKENグループのCSR。

DAIKENグループでは、「人と空間・環境の調和をテーマに顧客本位の経営を行う」という経営理念を実践するため、「中期経営計画」とともに「中期CSR活動計画」を策定。「企業行動基準」に基づいて従業員一人ひとりがCSR活動に取り組んでいます。



CONTENTS

DAIKENグループのCSR 1
 トップメッセージ 3
 事業展開 5
 [特集]
 I 地球にやさしいモノづくり 7
 II 人にやさしいモノづくり 11
 [CSR活動報告]
 お客様のために 15
 地域社会のために 19
 従業員とともに 21
 マネジメント 22
 地球環境のために 23
 CSR活動の取り組み状況 25
 会社概要 26

編集方針

本報告書は、DAIKENグループのCSRに対する取り組みや考え方をステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう、わかりやすい編集を心がけ、具体的な活動事例を中心に紹介しています。より詳細な取り組みにつきましては、当社Webサイトに随時掲載していきます。

- 対象期間：2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)ただし、一部2013年6月までの情報を含みます。
- 報告範囲：大建工業(株)および大建工業グループ環境パフォーマンスデータは、一部範囲が異なります。大建工業(株)を示す場合は「DAIKEN」、大建工業グループを示す場合は「DAIKENグループ」と表記しています。
- 発行月：2013年8月
- 前回発行月：2012年7月
- 次回発行月：2014年7月(予定)

アンケートWebサイトより、本報告書に対するご感想をお聞かせください。
https://www.daiken.jp/form/csr_enq.html

ビジョン ずっと暮らす。地球と暮らす。
『くらし価値』創造企業 DAIKEN

方針 大転換・大躍進
～純利益：100億円への挑戦(売上高：2,000億円)

ビジョン 資源循環型企業のリーディングカンパニーとして、人と環境が共生できる持続可能な社会の実現を目指します。

方針 社会的使命として「震災復興」に全社を挙げて取り組み、エコ素材の生産・供給をとおり社会に貢献する。

- | | | |
|---------------------------|-------------------|---------|
| 1 法令等の遵守 | 5 環境問題への積極的取組 | 9 国際協調 |
| 2 安全・安心で、社会に有用な商品・サービスの提供 | 6 社会貢献 | 10 周知徹底 |
| 3 公正な取引 | 7 働きやすい職場環境の実現 | 11 率先垂範 |
| 4 企業情報の開示 | 8 反社会的勢力および団体との対決 | |
- ※企業行動基準の全文は、Webサイト「会社情報」に掲載しています。



ずっと暮らす。
地球と暮らす。
『くらし価値』創造企業
DAIKEN

代表取締役 取締役社長

澤木良次

DAIKENグループのCSR

DAIKENらしさを追求し、DAIKENでなければ創出できない価値を提供し続け、広く社会に貢献することがDAIKENグループのCSR活動であると考えます。

では、“DAIKENらしさ”とは何か？それは、当社経営理念である「人と空間・環境の調和をテーマに顧客本位の経営を行う」の文言に込められていると言っていいでしょう。当社は創業以来、地球環境に配慮したエコ素材と、消費者目線に立った“質”の高い住環境を創出する製品を開発し、提供することで、この経営理念を具現化し、CSR活動を実践してきました。

エコ素材と高機能建材で『くらし価値』を創造

エコ素材の原点は、今から55年前の1958年、廃材なども含めて木質資源を無駄なく活用することができる「インシュレーションボード」の生産開始にまで遡ります。その後も「ダイロートン」をはじめ、「MDF」や「ダイライト」、「エコ台板」など、“木材資源の有効利用”と“未利用資源の有効活用”を図ったエコ素材を数多く生み出してきました。

さらに当社は、これらエコ素材の開発と並行して、住環境の“質”の向上、即ち安心、安全、健康、快適な住まいの実現を目指し、プラスαの“機能”を付加した高機能建材を提供してきました。今や住まいづくりにおいて当たり前になっている断熱、耐震、防音、調湿といった機能のほとんどは、DAIKENがスタンダード化したものと言っても過言ではありません。日本の住宅における質的向上の牽引役として、DAIKENが果たしてきた役割は非常に大きかったと自負しています。

多様化するお客様、社会からの期待

そして現在、我々企業に対するお客様や社会の期待・要請は多様化しています。例えば国産材の活用促進。急速に枯渇する熱帯雨林の保護は以前より指摘されてきましたが、その一方で近年、国産材の活用促進が課題として取り上げられています。その背景には、林業の衰退により、適切な整備が行き届かない荒廃した森が増加している現実があります。先進国の中でもトップクラスの森林

率を誇る日本にとって、その豊かな資源をしっかりと活用することが日本の大命題でもあるというわけです。

また、2年前に発生しました東日本大震災によって、住まいに対する消費者の意識も大きく変わり、家族の生命と財産を守るため、耐震性能や耐火性能など住まいの安全・安心を重視する傾向がより顕著になりました。

もちろん、震災復興に向けた取り組みも、企業にとって欠かすことのできない重要な使命です。被災地から遠く離れた人にとっては“もう2年”という印象かもしれませんが、現地の方々にとっては“まだ2年”、復興への取り組みも未だ緒についたばかりというのが実情です。決して過去のことでなく、今現在も住居をはじめ様々な問題で不自由を強いられている方々が大勢おられます。そのことを我々は決して忘れてはならないし、DAIKENグループとしてできるのは、安全・安心な“住まい”づくりを通じて、震災復興に貢献することだと考えます。今後につきましても、現地スタッフだけでなく全社一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

環境発想と消費者目線のモノづくりでお客様から支持される企業へ

先程、お客様や社会の期待・要請が多様化していると申しましたが、それと同時にものすごいスピードで変化しています。そんな中、我々がやるべきことは市場の僅かな変化を敏感に察知し、DAIKENに対する期待・要請を素早くキャッチすることにあります。その上で、当社が長年培ってきた技術、ノウハウ、即ち“DAIKENらしさ”をどう活用し、これら期待・要請にどう応えていくのか考え、実行に移すことだと考えます。

その実践には、開発から生産、販売、提案活動に至るそれぞれの現場において“消費者目線”で物事を考え、行動することが欠かせません。言い換えるなら、“現場力”を向上させることが、お客様や社会から支持される企業として継続的に発展するための鍵だということです。

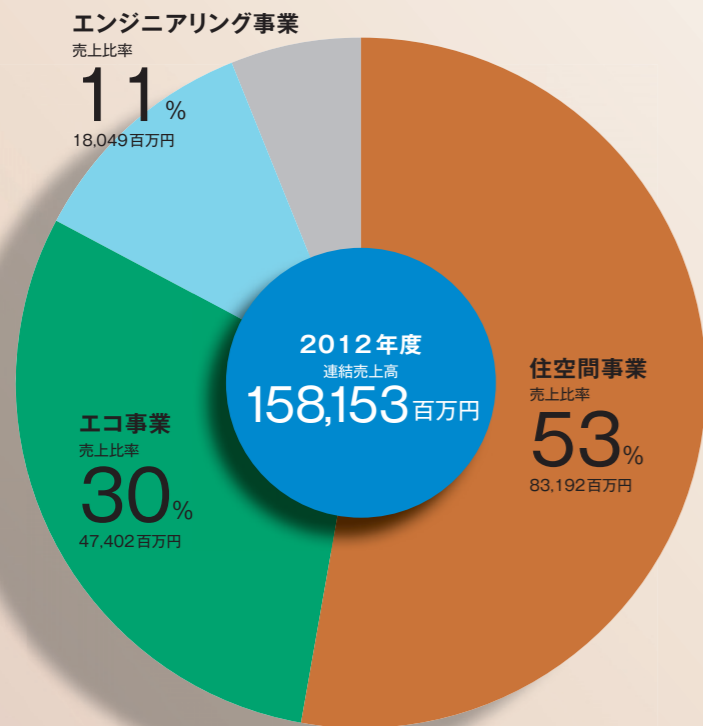
環境発想のモノづくりと消費者目線のものづくり。今後もDAIKENグループは、全社一丸となってこの2つのモノづくりに真摯に取り組み、人と空間と環境の調和を実現してまいります。

3つのコア事業で新たな『暮らし価値』を創造

DAIKENグループは1945年の創業以来、経営理念として「人と空間・環境の調和をテーマに顧客本位の経営を行う」を掲げ、社会の変化、そしてお客様のニーズの変化にマッチしたさまざまな製品やサービスを提供してきました。

これからもこの経営理念のもと、DAIKENグループは「住空間事業」「エコ事業」「エンジニアリング事業」の3つのコア事業で、新たな『暮らし価値』を創造していきます。

事業別売上比率



売上比率は、2012年度の連結売上高に基づくもので、その他の事業が6%あります。

住空間事業

お客様の暮らしを考えた
機能・品質をプラス

住まいづくりに欠かせない床材や壁材、天井材、下地材をはじめ、収納や建築音響製品まで、幅広い住宅用建材を製造。安全・安心・快適・便利・健康という視点で暮らしを見つめ、また環境にも配慮しながらあらゆる人にとっての住み心地の向上をめざした製品を提供しています。



エコ事業

地球にも人にもやさしい
モノづくり体制を確立

資源循環型企業のリーディングカンパニーとして、“木質資源の有効利用”と“未利用資源の有効活用”を図ったエコ素材の開発・製造に積極的に取り組んでいます。断熱・吸音・調湿・耐震性などの機能を持たせて製品化することで、地球環境への配慮と暮らしの快適性を両立させました。



エンジニアリング事業

快適な空間づくりを
トータルでサポート

文教施設などの内装工事や工事部材の生産・仕入れ・販売から、設計・施工のコンサルタント業務など、トータルで空間づくりをサポートする体制を整えています。多種多様な工事部材と、その性能を最大限に引き出す専門的なノウハウと技術を活かして、快適な空間を提供しています。

- 内装工事
- 工事部材の生産・仕入れ・販売
- 設計・施工のコンサルタント業務
- 技術指導



Part 1 エコ素材の開発・需要創造による資源の有効活用

さまざまな場所で活躍するDAIKENの『エコ素材』

木質資源を無駄なく活用できるインシュレーションボードの生産を開始したのは1958年。

以降、現在に至るまでDAIKENグループでは、再生資源や未利用資源を主原料としたエコ素材の開発・

需要創造に取り組むことで、地球にやさしいモノづくりを実践しています。

エコ素材

木質資源を有効活用



インシュレーションボード IB

建築解体時の廃木材などを原材料に使用しているグリーン購入法特定調達物品に該当する木質繊維板。

特長 緩衝材や芯材などに適したクッション性や軽量を有しています。その他に保水・撥水などのさまざまな機能を付与することができます。

主な用途 下地材、畳床、養生材など



MDF

製材端材などを原材料に使用しているグリーン購入法特定調達物品に該当する木質繊維板。

特長 表面・木口面が滑らかなので、ラミネート加工などの化粧加工に適しています。均質で強度が高く、優れた耐傷性を発揮します。

主な用途 室内ドア、床材、造作材など

鉱物資源を有効活用



ダイロートン DL

製鉄時の副産物であるスラグを繊維化したスラグウールを主原料としたロックウール吸音板。

特長 防火性能に加え、断熱・吸音効果を発揮します。「吸ホルムアルデヒド」「消臭」「調湿」などの機能を持つ製品もあります。

主な用途 天井材、壁材など

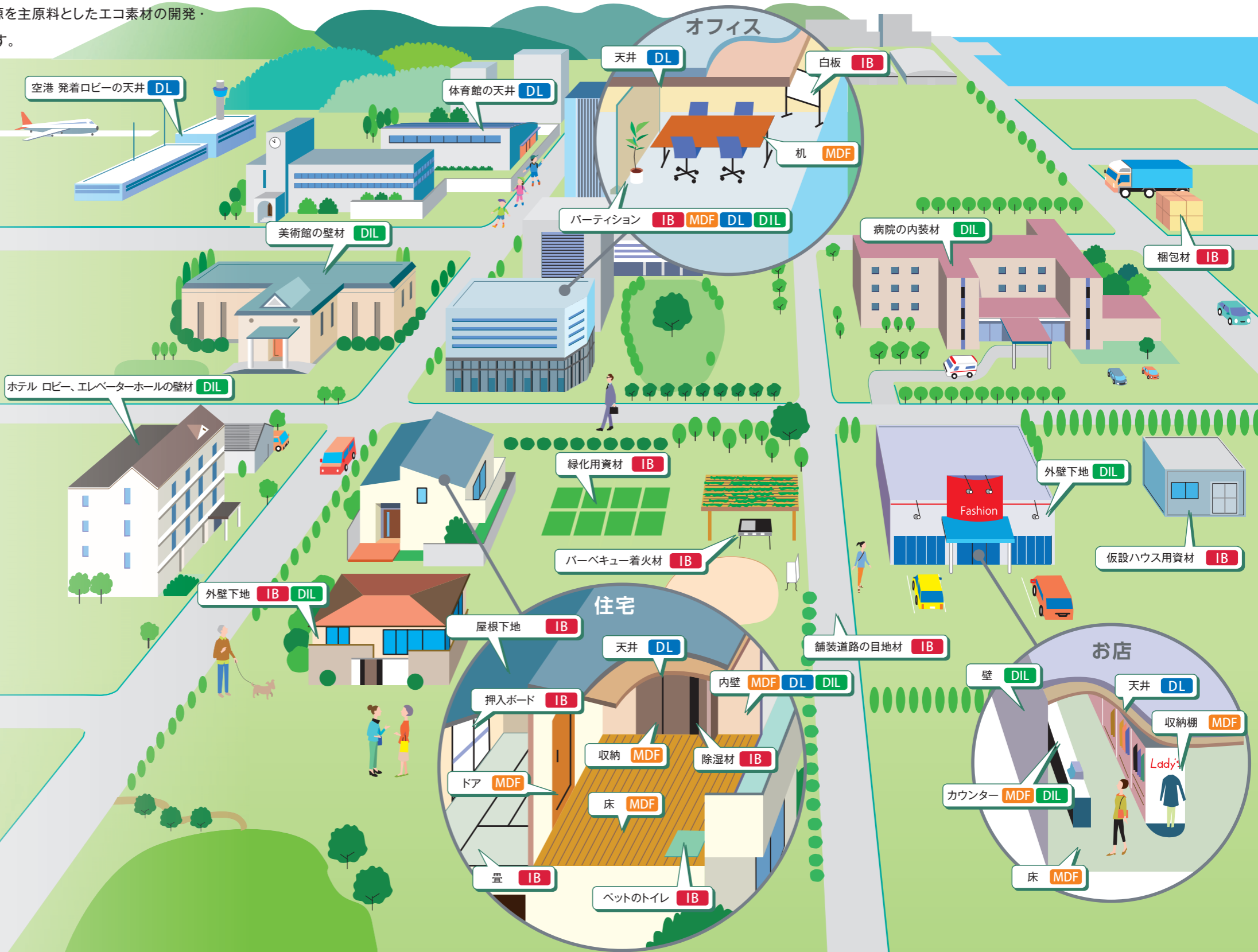


ダイライト DIL

再生材料であるスラグウールと未利用資源であるシラス(火山灰)を有効活用した無機質パネル。

特長 アスベストを一切使用しないなど、人と健康に配慮したクリーンな建材です。高強度、耐火、高耐久に加え、軽さも兼ね備えています。

主な用途 外壁下地材、不燃壁材など



トップメッセージ

事業展開

特集 I

特集 II

活動報告

CSR活動の取り組み状況

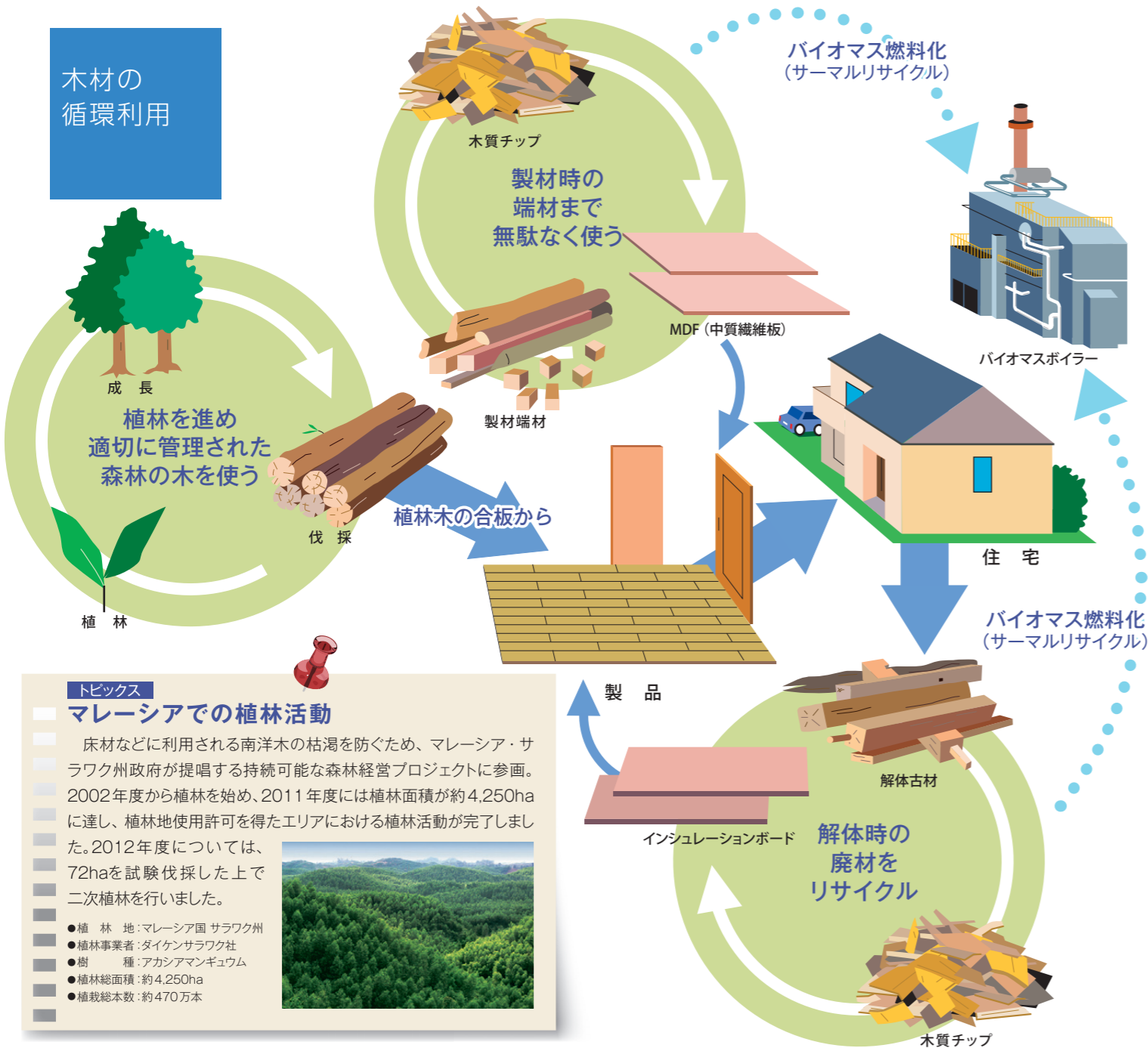
Part 2 木材の循環利用と国産材の活用

木を大事に利用し、使い続けることで、資源循環型社会の実現と日本の美しい森の保全に貢献します

木は再生可能な資源であり、炭素を貯蔵し酸素を放出するという地球上で重要な役割を果たしています。DAIKENグループでは、これら地球温暖化防止に関わる木質材料の優位性を踏まえ、「植林を進めること」「適切に管理された森林の木を使うこと」「木材資源を無駄なく活用すること」、そして「一度使われた製品をリサイクルして使うこと」といった木の循環利用を進めています。

さらにDAIKENグループでは、日本の森林資源の活用にも積極的に取り組んでいます。日本の木を使い続けることは、森の適切な手入れにつながります。それは、森の美しい環境を守るだけでなく、洪水や土砂災害の防止、水の浄化、地球温暖化の防止といった“森のちから”の強化にもつながります。

木材の循環利用



トピックス
マレーシアでの植林活動

床材などに利用される南洋木の枯渇を防ぐため、マレーシア・サラワク州政府が提唱する持続可能な森林経営プロジェクトに参画。2002年度から植林を始め、2011年度には植林面積が約4,250haに達し、植林地使用許可を得たエリアにおける植林活動が完了しました。2012年度については、72haを試験伐採した上で二次植林を行いました。

- 植林地：マレーシア国 サラワク州
- 植林事業者：ダイケンサラワク社
- 樹種：アカシアマンギユム
- 植林総面積：約4,250ha
- 植栽総本数：約470万本



国産材活用の取り組み

1 日本の木の美しさを提案～『日本の樹シリーズ』

国産材で空間をコーディネート

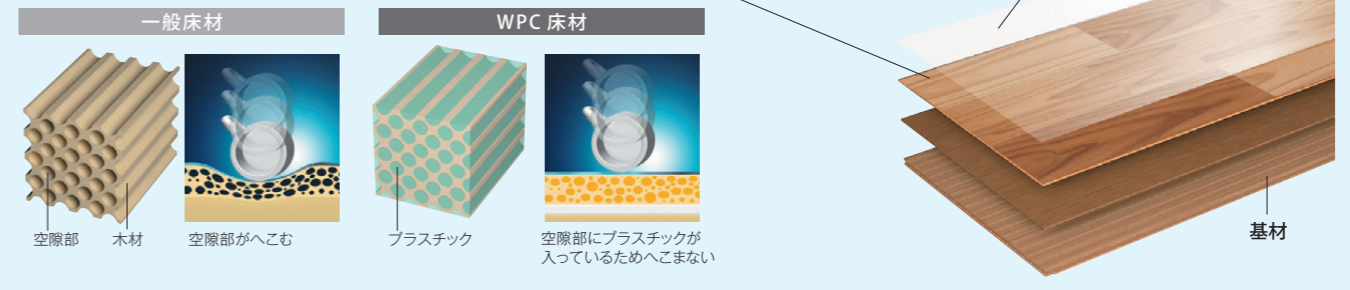
国産材を表面化粧材として使用した内装建材『日本の樹シリーズ』。ドア、収納、階段、格子間仕切りの表面化粧材には、古くから家具や生活用具などの材料として用いられ、日本人に馴染みの深い国産材「杉」「栗」「柎」の3樹種を採用。床材については3樹種に加え、「銀杏(いちじょう)」「鬼胡桃(おにくるみ)」「沢胡桃(さわぐるみ)」の計6樹種をラインアップしました。木の存在感を際立たせる豊かな趣から、美しい木目を活かしたやさしい風合いまで、組み合わせ次第で好みの内装空間を演出します。

技術力で国産材の欠点を克服

やわらかい国産樹種は、強度を必要とする床の表面化粧への使用は敬遠されてきましたが、DAIKEN独自の加工技術・WPC加工を施すことで、その欠点を克服。天然木の持つ自然な美しさや風合いをそのままに、いつまでもキレイでお手入れが簡単な床材に仕上げました。



国産樹種の表面化粧材のWPC加工

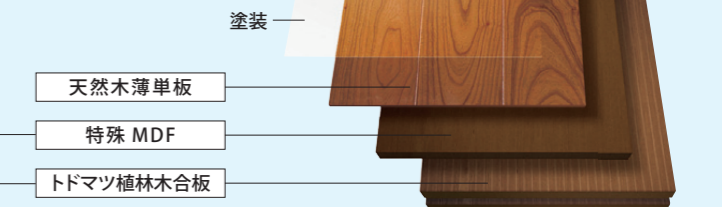


2 日本の木の床基材への転換～『フォレスハード』

床材「フォレスハード」の基材には、国産のトドマツ合板を使用。トドマツは節が多く床材としての利用が敬遠されてきましたが、DAIKENは特殊MDFを組み合わせることで、国内企業として最初にトドマツの床基材への利用に成功しました。なお、『フォレスハード』は、林野庁の「木材利用ポイント制度」[※]における登録建築材料に登録されました。

Eハードベース

Eハードベースとは環境にやさしい植林木合板とMDF(中質繊維板)を組み合わせたエコ基材です。



[※] 地域材の需要喚起を目的に、対象地域材を活用した木造住宅の新築等、内装・外装の木質化工事、木材製品等の購入の際に木材利用ポイントを付与し、地域の農林水産品等と交換できる制度。

Part 1 一歩進んだ安心空間をご提案～高齢者向け機能建材「おもいやりシリーズ」

人と人が支え合う社会づくりに 安全な建材でお役に立ちたい

年齢を重ねても、いつまでも変わりなく過ごせるように、人と人が支え合う社会のお手伝いをしたい。
そんな想いから生まれたのが高齢者向け機能建材「おもいやりシリーズ」です。
めざしたのは、お年寄りの方々に安心してお使いいただくことはもちろん、
お世話をする方々、施設に携わる方々にも喜んでいただけるモノづくり。
より快適に日々を過ごすために、歩く、立つ、座るなど暮らしの動作をサポートし、玄関・廊下、
共用スペース、居室、水まわりなど、それぞれの場所に最適なアイデアやアイテムを取りそろえました。
「おもいやりシリーズ」は、みんなが笑顔になれる安心で快適な空間づくりをご提案します。



トピックス
87%の医師が「自ら使いたい」と評価
 抗ウイルス機能「ピオタスク」付き建材が「医師の確認済み商品」認定を取得

「おもいやりシリーズ」の中で提案しています、抗ウイルス機能「ピオタスク」を付与したドアのにぎりバーや手摺などの製品が、医師の評価を受けた商品として「Ask Doctors 医師の確認済み商品」に認定されました。

この認定は、全国23万人の医師を会員とする国内最大級の医療従事者向けサイト「m3.com」を運営するエムスリー(株)による「AskDoctors 評価サービス」で高評価を得た商品のみ取得が可能で、「ピオタスク」付き建材の評価は、医師100名に対する調査の結果、対象者の87%が「ぜひ使いたい」または「使いたい」と回答し、認められました。

AskDoctors認定マーク 抗ウイルス効果比較(にぎりバー/手摺の木部)
 試験報告書NO北環発_23_0076号

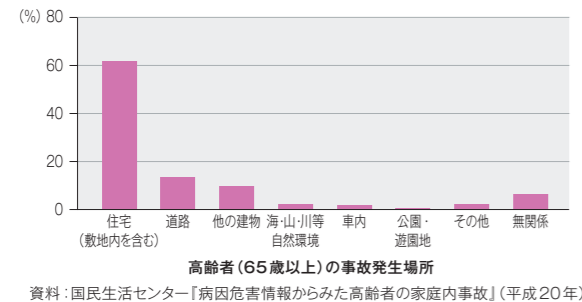
※1 試験機名：(一財)北里環境科学センター 試験方法：JIS Z2801を参考にした方法 試験結果：抗ウイルス剤無しと比較して99%の抗ウイルス効果 ●ウイルス感染量の指標であり、条件により効果が異なる場合があります。●当データは上記試験機関での結果であり、感染予防を保証するものではありません。抗ウイルス効果は使用状況や使用方法により異なります。

開発の背景

「おもいやりシリーズ」とは

高齢者のアクシデントは、 6割以上が住まいで起きています

現在、わが国は4人に1人が65歳以上といわれるように、急激な高齢化が進んでいます。しかしながら住環境がそれに追いついておらず、高齢者が安心して暮らせる住宅が不足しているのが現状です。高齢者がみまわれるアクシデントの6割以上が、家庭で起きているという事実がそれを物語っています。住み慣れたはずの自宅が、加齢とともに危険な場所になってしまう。バリアフリーなど、高齢者が安心して暮らせる住環境の整備が急がれています。

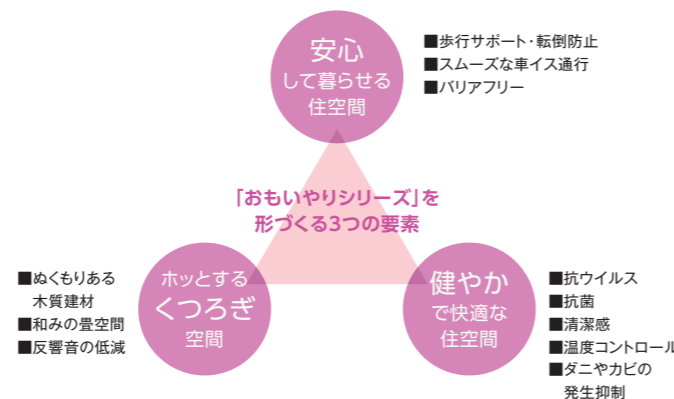


者向け住宅の供給促進のための支援措置を講じるなど、対策に乗り出しました。サービス付き高齢者向け住宅は、賃貸住宅なので自宅とさほど変わりなく生活することができ、入居時の高額な費用がいらず、夫婦世帯でも単身でも暮らすことができるなど、入居者にとって多くのメリットがあります。このため今後の高齢者住宅の中心として期待が寄せられています。

安心・くつろぎ・健やか 3つのキーワードで心地よい住空間を提供

住空間づくりのプロとして、DAIKENは高齢者住宅の課題に取り組んできました。住まいが心安らかに過ごせる空間であってこそ、毎日の生活が営めます。それは高齢者住宅でも同じこと。いえ、むしろ年齢を積み重ねてきた人にこそ、もっと心地よい住空間を提供しなければなりません。

そんな想いを込めて誕生したのが「おもいやりシリーズ」です。「おもいやりシリーズ」は安心・くつろぎ・健やかをキーワードとした、一歩先をいく建材群です。住宅はもちろん、老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など、さまざまな高齢者住宅、さまざまな生活シーンで質の高いパフォーマンスを発揮します。



注目を集めるサービス付き高齢者向け住宅

高齢者の住まい方として、おおかかなところでは以下の4つがあげられます。

- ①住み慣れた自宅
- ②介護や生活サービスが安心な老人保健施設
- ③介護や生活サービスの質が高い有料老人ホーム
- ④日常生活のまま過ごせるサービス付き高齢者向け住宅

現在、わが国の全高齢者に対する介護施設や高齢者住宅などの割合は、わずか4.4%。住宅系は0.9%しかなく、いかに高齢者住宅が少ないかがわかります。これを受けて国もサービス付き高齢

製品
ラインアップ

なにげない建材にも、さりげなくアイデアを

見ただけでは他と変わらなくても、そこにはDAIKENならではの想いやアイデアが込められています。

ドア ドアに壁は、つくりません

若い人には苦にならない敷居などの段差。年齢を重ねると、つまずきの原因になったり、車イスが通りづらかったりと、思わぬ「壁」になることも。

そこで、段差や開閉機能などに配慮し、高齢者もスムーズに移動できるドアを豊富にそろえました。

- ①「にぎりバー(木部)」には、ウイルスを抑制する「ピオタスク(抗ウイルス機能)」をプラス
- ②吊戸は車イスも通りやすいゆとりの開口幅
- ③万が一、指をはさんでもアクシデントを防ぐ設計
- ④閉めた時の衝撃や跳ね返りにも配慮

おもいやり吊戸

収納 リスクもすっきりおさめて、収納です

衣服がひっかかったり、つまずいたり…。住空間に雑多に置かれたモノは、高齢者にとって思わぬアクシデントの原因になることも。そこで、幅広い規模の収納ニーズにご対応。収納もおもいやり発想で考えています。

- ①玄関での靴の脱ぎ履きを、無理なくラクな姿勢で
- ②靴を個別に整理して、エントランスを安全に美しく
- ③壁の厚みを利用した収納で、見通し良く、足元のリスクも軽減
- ④扉の開閉や物の出し入れのしやすさ、安全性に配慮

おもいやり収納 共同下駄箱ベンチ付

壁・天井・床 つくるのは、住まいというより心地よさ

床や壁などの建材は住まいを包む大切なもの。高齢者の暮らす空間は、建材にも配慮が必要になってきます。

そこで、滑りにくい床や、健やかな空気をつくる壁材など、建材にもやさしいアイデアを込めました。

- ①床は滑りにくく、車イスにも強い
- ②壁や天井で清潔な空気環境づくり
- ③汚れがつきにくく、お手入れ簡単な壁材
- ④反響音を抑え、大切な音を聞こえやすくする吸音天井材

おもいやりフロア

手摺 支えるのは、歩きたい気持ちです

手摺がサポートするのは、動作だけではなく。高齢者が自らの力で歩こう、立とうとする、その前向きな気持ちを支えるのも手摺の役割。そこで、握った時の手ざわりや安心感にまで配慮し、室内での移動を体とココロの両面から支えます。

- ①手を触れる木部には、ウイルスを抑制する「ピオタスク(抗ウイルス機能)」をプラス
- ②今まで手摺を取り付けられなかった場所にも、途切れずに設置
- ③軽量鉄骨など、手摺を取り付けられる下地の範囲を拡大
- ④各種手摺を、用途に応じて連結可能

手がかり手摺

Part 2 お客様の「あったらいいな」にお応えしました～和紙でできた「健やかおもて」

伝統的な和室からモダンな空間まで やすらぎに満ちた畳のある暮らしをご提案

畳は日本固有の文化です。その歴史は平安時代にまで遡ります。
畳は日本の伝統的な床材であり、やさしい肌触りや、適度なクッション性、優れた断熱性・保温性などで、長年、座り、寝ころぶ日本人の生活を足元から支えてきました。そんな伝統的な畳の良さを受け継ぎながら、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、製品化したのが「健やかおもて」です。
めざしたのは、お客様の「あったらいいな」にお応えすること。
健康的で、美しさが長持ちして、傷つきにくく、カラーも豊富……。
「健やかおもて」は、原材料に機械抄和紙を採用することで、これらお客様の「あったらいいな」を実現しました。



トピックス

「健やかおもて」が
会津ブランド「会津 史・季・彩・再」の認定取得
優れた性能と、会津オリジナル柄が評価

東部大建工業(株)会津工場で生産する「健やかおもて」(シリーズ名:清流ストライプ、銀白カラー品)が、福島県会津地域が全国に誇る優れた地域産品のみを認定する会津ブランド「会津 史・季・彩・再」の認定を取得しました。
今回の認定は、「健やかおもて」の優れた性能に加え、会津オリジナル柄の発売が評価されたもの。今後は、会津若松商工会議所と連携して全国の物産展で展示・販売し、消費者へのPRと販売促進につなげていくと共に、「会津ブランド」に認定された他の製品と連携して、新しい畳おもての活用や販路を開拓していきます。



会津ブランドのロゴ



「健やかおもて」会津オリジナル柄・銀白(栗色)

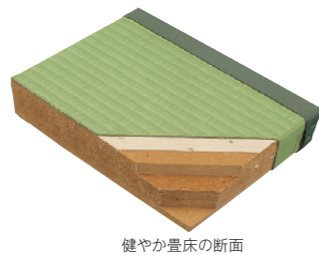
開発の背景

「健やかおもて」とは

畳分野進出のきっかけは インシュレーションボードの畳床展開

DAIKENが畳分野に進出したのは1973年。この年、DAIKENはエコ素材のひとつであるインシュレーションボードを使用した畳床「たたみボード」を開発し、販売をスタートさせました。

調湿性や断熱性に優れたインシュレーションボードの特長を活かした「たたみボード」は、それまで畳床に使用されていた藁(ワラ)の供給量が減少したこと、ワラ畳床と比べてダニやカビが発生しにくいことなどが評価され、急速に普及。現在では、ボード畳床が主流となり(ボード畳床85%：ワラ畳床15%)、ボード畳床の実に約9割のシェアをDAIKENが有しています。



健やか畳床の断面

イ草から和紙に 工業化の波は必ず起こる

DAIKENが、天然木質材料(和紙)を原材料にイ草に代わる新しい畳おもての開発をスタートさせたのは1990年。「畳おもて」の主原料はイ草です。当時、国内産から中国産の輸入物が増加。また、天候に左右されやすいため品質も不安定で、入手が難しくなることが懸念されていました。

ワラ畳床からボード畳床に置き換わったように、工業化の波は畳おもてでも必ず起こる。工業的に安定した品質で、性質の近い製品を供給できれば、消費者や業界・社会に役立つはず。これが「健やかおもて」の開発に向けた着想の原点でした。

開発チームは、ユーザーの厳しい注文を研究課題に活かして改善とテスト販売を重ね、1996年に岡山工場内(現岡山大建工業(株))に和紙をこより状にする撚糸機、表面コーティング処理機、織機に

至る、DAIKEN独自の生産ラインを設置。同年7月に販売を開始しました。



豊富なデザイン・カラーバリエーションで 畳の新たな魅力を訴求

発売以降「健やかおもて」は、優れた機能性が市場から高く評価されるとともに、デザイン・カラーのバリエーションを増やし畳の新たな魅力を訴求することで、順調に販売量を拡大してきました。

これら需要の拡大に対応するため、2011年には岡山大建工業(株)の既存生産ラインを増強。さらに昨年、東部大建工業(株)会津工場に生産ラインを新設しました。

住宅における伝統的な和室が減少する一方で、リビングやダイニングの一角に畳コーナーを設けるなど、和モダンのデザインテイストは人気が高く、日本人の床座でくつろぐというライフスタイルに変化はありません。DAIKENは、今後も積極的な製品開発でお客様の「あったらいいな」にお応えするとともに、日本の伝統的な畳文化の継承に努めています。



健やかおもて 清流(胡桃色(くるみいろ))



健やかおもて 清流(薄桜色)

製品特長

暮らしに役立つ性能でいままでの畳の不満を解消

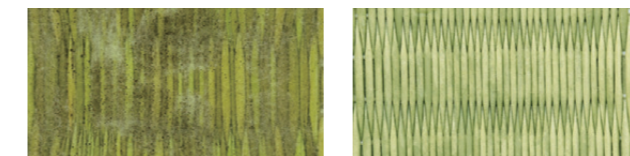
1 ダニ・カビの発生は、イ草に比べわずか

カビが生えやすい過酷な条件下でも、「健やかおもて」は「イ草おもて」に比べてカビの発生はわずかです。

こんな声にお応えしました ※
「あったらいいな」と思う畳

ダニの心配がない畳	54.8%
カビの心配のない畳	26.0%
アレルギーの心配がない畳	8.7%

カビ抵抗性試験(気温28℃、湿度97%の条件で28日間カビを培養)



従来の「イ草おもて」
カビが生え、カビをエサとするダニが発生しやすくなります。※写真は14日経過時点。

「健やかおもて」
和紙でできているため、イ草と比べカビの発生はわずかです。※写真は14日経過時点。

3 引っ掻いても、傷つきにくい

小さいお子様やペットのいるご家庭で気になるのが、畳の傷み。「健やかおもて」なら通常の「イ草おもて」に比べて約3倍の耐久性があります。

こんな声にお応えしました ※
耐磨耗試験(#180研摩紙、250g×2荷重で100回転後)
畳を敬遠する理由

表面が傷みやすい	59.3%
----------	-------

従来の「イ草おもて」	表面が割れてさざくれしやすくなります。
「健やかおもて」	ほとんど傷つかず、美しさを保ちます。

2 お手入れ簡単、キレイが続く

「イ草おもて」で気になるのが紫外線による色あせ。「健やかおもて」ならほとんど色あせせず、美しさが長持ちします。

こんな声にお応えしました ※
「あったらいいな」と思う畳

変色しない畳	48.7%
掃除がしやすい畳	36.9%

退変色比較試験(約2年間に相当する紫外線を照射)



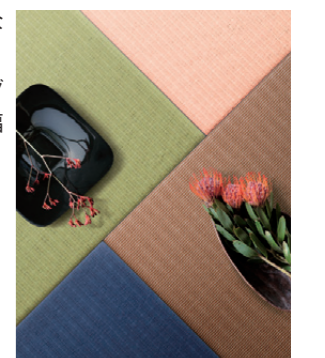
従来の「イ草おもて」
天然素材なので、茶色っぽくなってしまいます。

「健やかくん」
時間が経っても青々とした美しさを保ちます。

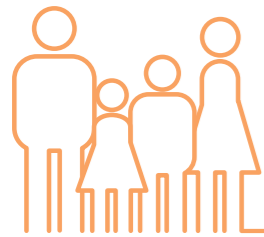
撥水性があるので、水分・汚れが染み込みにくくなっています。

4 コーディネートも自由自在

カラーも豊富な「健やかおもて」なら、洋室空間にもぴったりマッチ。和室だけでなくリビングやダイニングの畳コーナーにもコーディネートが広がります。



※「畳に関するインターネット・リサーチ」調査実施日：2011年5月31日、調査件数：312件、調査実施：(株)マクロミル



ダイレクトに届くお客様の声が モノづくりの指針になっています。

DAIKENグループは、お客様が「住まう喜び」を感じていただけるような空間づくりを追求し、さまざまな角度から製品の性能・品質向上に努めるとともに、お客様のご要望を次のモノづくりやサービスへとつなげていくための活動を推進しています。

お客様の気持ちに寄り添うために

■ お客様との接点を重視～ショールーム、お客様センター

DAIKENグループは、お客様の納得・満足のいく住まいづくりをきめ細かくサポートするため、また、お客様からいただいたご要望やご意見を新製品づくりやサービスに反映させるため、お客様との接点を大切にしています。

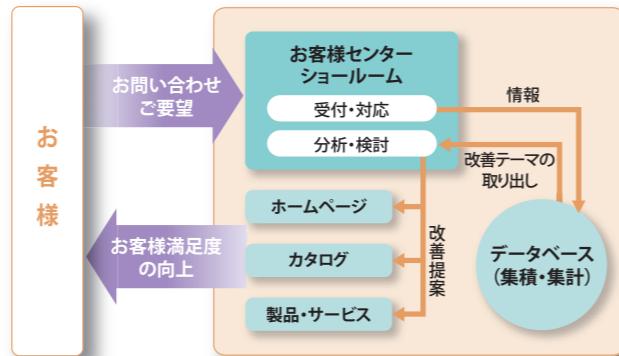
札幌から福岡まで全国11カ所に展開しているショールームでは、快適な暮らしをご提案する最先端の情報発信基地として、機能や性能の高い製品を数多く展示し、ワンランク上の暮らしをご提案。また、製品のサンプルを豊富に用意し、お客様からの「実物で色柄を確認したい」とのご要望にお応えするとともに、プランボードの作成、見積もりサービスのご提供など、専任スタッフがお客様の納得のいく「豊かな住環境」づくりをサポートしています。

また、DAIKENに対するお客様からのさまざまなご意見や製品に関するご相談などを直接お聞きする「お客様センター」では、お客様から寄せられた生の声に素早く真摯に対応することで、お客様からの信頼向上に努めています。

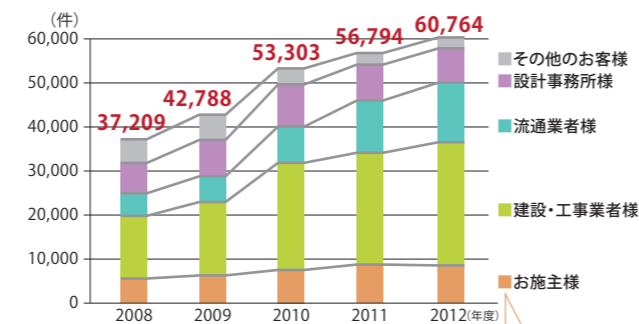
■ お客様の声を製品・サービスに活かす情報活用システム

ショールームやお客様センターで得られた多様な情報は、自動的にデータベースに集積・集計。このデータベースから重要課題を抽出し、社内の関係部門にフィードバックすることにより、ホームページやカタログの改善、新製品の開発につなげ、お客様の声に応えるものづくりとサービス向上につなげています。

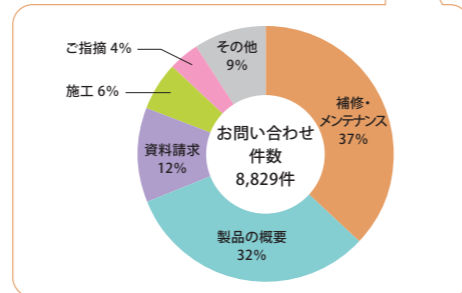
▼ お客様の声を製品・サービスに活かすフロー



▼ お客様からのお問い合わせ件数の推移



▼ お施主様からのお問い合わせ内訳



■ お客様目線のショールーム展開～お客様の生の声が集まる情報発信スペースをめざして

トピックス 1 新宿にTDY東京コラボレーション ショールームがオープン

2012年11月、東京(新宿)にTOTO(株)、YKK AP(株)との3社共同*のショールーム「TDY東京コラボレーションショールーム(新宿ショールーム)」をオープンしました。

3社共同ブースには、全面リフォームをイメージした戸建住宅のリモデル事例と、マンションリモデルの事例を空間で紹介し、より具体的でお客様の納得度の高いリモデルをご提案しています。



DAIKENブースでは、機能製品を数多く展示するとともに空間展示も充実させることで、暮らしをイメージしやすいショールームとしました。また、従来のショールームでは女性アドバイザーが中心でしたが、より専門的な知識が求められる耐震や高齢者対応などの相談に的確にお応えしたり、施工時の取まりや施工のアドバイスができるよう、製造部門や営業部門の経験がある男性アドバイザーを配置。従来にも増して充実したコンサルティングを行える体制を整えました。

TDY東京コラボショールームには、連日たくさんのお客様にご来場いただき、人と環境にやさしいDAIKEN製品の品質や性能を体感していただいています。



*TOTO(株)、YKK AP(株)とは、2002年、リモデルの空間提案力を強化し、お客様に期待以上の満足いただける快適な住空間を提供することを目的に、商品企画・開発や販売支援体制などで業務提携しています。

トピックス 2 『いい音・いい部屋体感ツアー』を開催 ～秋葉原ショールーム

専門的な情報提供を行える機能体感型ショールーム・秋葉原ショールームでは、「自宅でもっと音を楽しみたい」とお考えのお客様を対象に、『いい音・いい部屋体感ツアー』を開催しています。

同ツアーでは、秋葉原ショールームに備えた2種類の防音室(本格派タイプ、簡易タイプ)での音の聴き比べや、当社の音のスタッフによる情報提供などを通じて、これから計画される防音室やシアタールーム、または既にあるお部屋の音の満足度向上をお手伝いしています。

2012年10月に開催した同ツアーには、開催2日間で35組40名のお客様が参加。今回は国内のお客様だけでなく、海外のお客様にもご参加いただきました。

秋葉原ショールームでは、今後も同ツアーを継続して開催していく予定です。



トピックス 3 『おもいやりシリーズ提案会』を開催 ～大阪ショールーム・秋葉原ショールーム

2012年7月、大阪ショールームと秋葉原ショールームでは、お取引先様や設計事務所様などを招き、高齢者向け機能建材「おもいやりシリーズ」の提案会を開催しました。

また、大阪ショールームでは今回の提案会に併せて「これからの高齢者の住まいづくりセミナー」を開催。「バリアフリーリフォームのポイント」や「サービス付き高齢者向け住宅」に関する情報提供を行いました。

両ショールームには627名の来場があり、来場者からは「おもいやりシリーズ」に対するさまざまな意見や要望をいただきました。これらの声は今後の製品開発に活かしていきます。



お客様目線のモノづくりのために

■ お客様の安全・安心を支える仕組みと運用

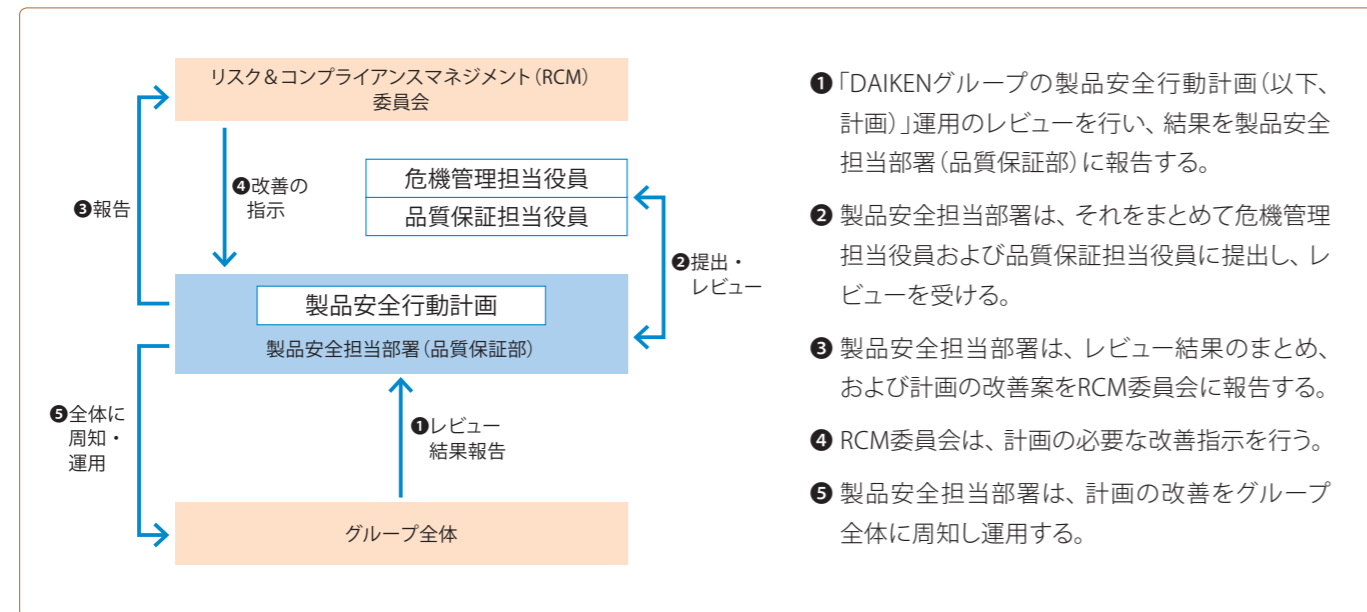
DAIKENグループは、2008年10月に「製品の安全に関する基本方針」を制定し、製品安全への意思と決定を社内外関係者の皆様へ向けて公表しています。

また、より安全性・信頼性の高い製品・サービスを提供し続けていくため、基本方針に基づいて「DAIKENグループの製品安全行動計画」を2009年3月に策定し、同年4月より運用を開始しました。

製品安全行動計画については、その内容が各部門で適切に実施されているかどうか、年1回のレビューを行い確認しています。ここで問題点が発見された場合、是正・修正を行い改善しています。

DAIKENグループでは、これら活動を通じて従業員の意識改革を徹底し、安全に機能し、安心してご使用いただける製品の提供に取り組んでいます。

▼製品安全行動計画の運用の仕組み

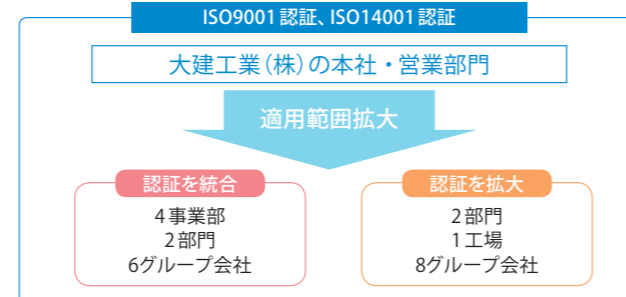


■ グループ全体で品質マネジメントシステムを強化

2013年2月、大建工業(株)の本社・営業部門で取得しているISO9001認証の適用範囲を、国内のグループ14社に拡大しました。

DAIKENグループでは、グループ全体でISO9001に基づく品質マネジメントシステムを運用することによって品質管理体制を強化し、お客様の満足と信頼につながる品質向上への継続的な改善に取り組んでいきます。

▼DAIKENグループのISO9001、ISO14001 認証取得状況



製品の安全に関する基本方針

DAIKENグループは、製品の安全確保を企業の社会的責任と認識し、経営の重要課題に位置付け、以下のとおり製品の安全に関する基本方針を定め、安全に機能し、安心して使用できる製品の提供に取り組めます。また、お客様に対する説明責任の遂行や製品事故への誠実な対応に努めます。

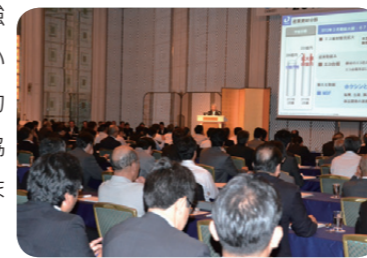
1. 安全・安心で、社会に有用な製品の提供
2. 社内体制の整備・強化
3. 情報提供
4. 製品事故情報の収集・開示
5. 製品事故の報告
6. 製品回収の実施
7. 再発防止策の策定
8. 周知徹底、運用評価

お取引先と想いをひとつにするために

■ 全国各地で方針説明会を開催

当社は、全国の主要お取引先に当社の経営方針や営業方針を共有いただく場として、毎年、営業部のエリアごとに「方針説明会」を開催しています。

2012年は5月から7月にかけて全国9カ所で開催しました。従来は建材を扱っていただいているお取引先を対象に開催していましたが、今回より産業資材分野およびエンジニアリング分野のお取引先にまで対象を拡大。より多方面のお取引先に対し、DAIKENが経営方針として掲げる「消費者目線の取り組み強化」についてご理解いただくとともに、積極的な意見交換を通じて協力体制の強化を図りました。



■ 新規市場、新規お取引先へのアプローチ ～高齢者住宅フェア、DIY展示会に出展

DAIKENは2012年5月、東京流通センターで開催された「高齢者住宅フェア2012」に初めて参加し、「おもいやりシリーズ」を中心に、手摺、調湿壁材「ざらりあ〜と」、畳などを出展しました。各製品への評価は高く、介護関連事業者様など今まで関わりの少なかった企業様との接点を得ることができ、今後の高齢者市場でのマーケット拡大につながる貴重な場となりました。



また、8月には日本最大級のDIY展示会「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2012」に初出展。ホームセンター関係者や一般ユーザーの方々に対し、当社機能製品をアピールしました。建材メーカーの出展は当社だけで、ホームセンター市場での認知度アップや、新たな顧客との接点づくりにつながるとともに、ホームセンター関係者の意見を直接聞くことができ、商品開発の面でも非常に貴重な機会となりました。



■ 安全衛生活動の基本方針を共有化

～ダイケンエンジニアリングが安全大会総会を開催

ダイケンエンジニアリング(株)では、毎年、同社工事を請け負う内装工事業者をメンバーとする「ダイケンエンジニアリング安全衛生協力会」の総会を開催し、その中で現場事故防止のための安全教育を実施しています。

同総会では、中高層ビルや集合住宅、文教施設といった各現場で、実際に内装工事に従事する関係者に対して、過去に発生した事故の事例紹介や安全講話などを通じて、安全管理の重要性を訴求。安全意識の向上と事故防止への意識付けを図り、工事の品質向上につなげています。

2012年4月、大阪で開かれた同総会には330名が参加。安全衛生の基本方針『安全は企業の品質であり社会的責任』、安全スローガン『高所作業 安全帯に命かけ』を共有化し、参加者全員が無事故・無災害を誓い合いました。



■ 産業資材分野のお取引先との関係を強化 ～産業資材営業統轄部が賀詞交歓会を開催

当社エコ素材を住宅建材分野だけでなく、家具や流通、生活用品分野などさまざまなジャンルに提案・供給する産業資材営業統轄部では、2013年1月、お取引先60社・102名を招いてグランパシフィック LE DAIBA (東京)にて「新年賀詞交歓会」を開催しました。

同会は、多種多様なお取引先と交流を図り関係強化に結びつけること、また当社の産業資材分野での取り組みを認知いただくことを目的に2012年からスタートし、今回で2回目の開催となりました。

当社からは澤木社長をはじめ関係者35名が出席し、終始和やかな雰囲気の中、来場者と今年の景気動向や市場動向などについて情報交換が行われました。





いつも人々の暮らしをそばから支える 地域に根ざした企業をめざします。

東日本大震災復興のために

■ 陸前高田「奇跡の一本松」公印化にWPC技術で協力

2013年3月、東日本大震災の大津波に耐えた岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」を同市の市長印として残すプロジェクトに協力し、「岩手県陸前高田市長之印」の文字が刻まれた角印材を贈呈しました。

本プロジェクトは、「奇跡の一本松」を保存するために伐採された枝部分を用いて陸前高田市長の公印を作り、100年、200年後の後世に復興への想いを伝承するというもの（全日本印章業協会青年部連絡協議会の発案）。松の木は木目が粗くやわらかいため、DAIKENのWPC加工技術を利用して彫刻が行える硬さにし、印材として使えるようにしました。



■ 「次世代林業東北サミット」に地域材活用製品を出展

2012年7月に開催された「次世代林業東北サミット」に、「東北応援フロア（岩手モデル）^{*}」を出展し、東北復興に寄与できる地域材活用の取り組みについて、行政・地方自治体の関係者、地域の住宅産業関係者約800名の来場者の方々にご説明しました。岩手県大船渡市の公営住宅での採用も決定し、今後進む復興住宅の建設においてお役立ていただけるものと考えます。



^{*}岩手県産のスギ間伐材を合板にし、岩手県内のフローア工場加工した床材

■ 「ふれあい感謝フェア」でお取引先、地域とふれあい

2012年7月、TDY^{*}3社は(株)ノーリツ、ダイキン工業(株)と共同で「復興応援元気フェスタ」を気仙沼市民会館で開催し(リモデルクラブ店6社と共催)、住まいづくりの面から復興支援をめざしました。

震災被害によって住まいに困りごとを抱える住民の方々に、その解決に役立ていただけるよう展示コーナーなどを用意した他、話題の人気映画の上演や、地元の特産品や農産物の販売を実施。気仙沼市民を中心に2000名を超える来場者があり、大盛況で終わることができました。



^{*}TDY：TOTO(株)、大建工業(株)、YKK AP(株)の3社の略称です。

■ 東日本大震災復興支援ボランティアに参画

2012年5月、7月、12月、2013年2月に行われた伊藤忠グループ社員による東日本大震災復興支援活動にDAIKENグループ社員6名(延べ)が参加し、岩手県陸前高田市にて畑の開墾作業、側溝の掻き出し作業、もみじの植林、草刈作業などのボランティア活動を行いました。



美しいまちづくりのために

■ 東部大建工業～海岸清掃で50kgのゴミを回収

2012年9月、東部大建工業(株)高萩工場は、工場東側の赤浜海岸の清掃活動を行いました。

東日本大震災余震が収まってきた2012年に活動を再開し、11名が約1時間、漂着物のゴミ拾いを実施しました。回収したゴミは、ペットボトルや発泡スチロール等、ゴミ袋にして12袋、総重量50kgになりました。



■ 井波大建工業～「ふれあいエコウォーク30km」開催

2012年10月、井波大建工業(株)主催の「第7回ふれあいエコウォーク30km」に、DAIKENグループ社員や社外お取引先関係者の方々など212名が参加し、道路や歩道のゴミ48kgを回収しました。ウォーキング後は、ゴミ重量の順位発表や抽選会が行われ、地域貢献への意識を深めました。



地域との交流のために

■ ボルネオ国際凧フェスティバルに協賛

2012年9月、世界中のユニークな凧が一堂に会する「ボルネオ国際凧フェスティバル」がマレーシア国サラワク州にて開催されました。日本、シンガポール、アメリカ、イギリスなど24カ国のチームが参加する大規模な大会で、ダイケンサラワク社はマレーシアのチームに協賛し、長さ約50mの大凧を寄贈しました。



■ 三重ダイケン～恒例の夏祭り地域に貢献

2012年7月、三重ダイケン(株)久居工場で「第3回三重ダイケン夏祭り」が開催され、前回は上回る550名の方々が参加されました。チーム神鬼龍による恒例のよさこい踊り演舞に加え、大道芸人による大道芸・バルーンイベント、子ども対象のジャンケン大会などが行われ、地域の方々に楽しんでいただき、大盛況のうちに幕を閉じました。



子どもたちの未来のために

■ 井波大建工業～「14歳の挑戦」を受け入れ

2012年10月、富山県内では中学生を対象とした「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」が実施され、井波大建工業(株)は南砺市立井波中学校2年生の2名を受け入れました。5日間にわたるドア製造補助作業の職場体験実習を終え、参加した中学生から感謝の言葉が寄せられました。

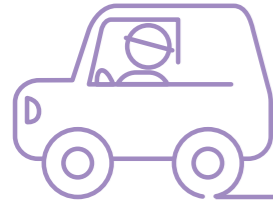


■ 三重ダイケン～久居工場が小学生の工場見学受け入れ

2012年7月、三重ダイケン(株)久居工場は、地域貢献活動の一環として津市主催の工場見学および体験学習「わくわく津市の工業体験☆2012」に協力し、津市内の小学生5、6年生30人の工場見学を受け入れました。参加した小学生からは「とても楽しかった」「また来たい」との感想が多く聞かれました。



安心してのびのび働ける職場が お客様への真心を育てています。



DAIKENグループは、従業員の人権を尊重し、その国籍、信条、性別または社会的身分の如何によって差別的取扱いをうけないことを「就業規則」に定め、健全な職場環境づくりを進めるためにさまざまな取り組みを行っています。

ワーク・ライフ・バランスの推進

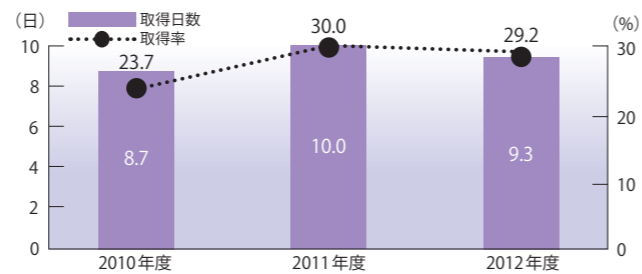
■ 年次有給休暇取得制度の定着化

連続年次有給休暇取得制度は、2日ないし3日の連続休暇を取得する制度で、年次有給休暇の取得促進と従業員の心身のリフレッシュを図ることを目的として、2007年度に導入しました。制度の導入によって、計画的で効率的な業務運営にもつながっており、今後さらなる定着化を進めていきます。

■ 仕事と育児・介護の両立を支援

育児・介護休業、子どもの看護休暇、育児・介護短時間勤務等の各種制度の整備・拡充を図り、働きやすい職場環境の整備に努めています。

▼連続年次有給休暇取得日数・取得率



▼育児休暇取得者数

	2010年度	2011年度	2012年度
取得者数	5人	11人	5人

ダイバーシティ推進への取り組み

■ 従業員の人権尊重

2011年度より、ハラスメントを防止するため、管理職を対象とし、e-ラーニング教材による教育を実施しています。

▼ハラスメント防止e-ラーニング受講者数

	2011年度	2012年度
受講対象者	全管理職	新任管理職
受講者数	468名	21名

■ 障がい者の雇用

障がい者の能力と適性に応じた雇用の場を提供し、ともに発展していける障がい者の雇用を進めています。

■ 定年退職者の再雇用

2006年度より「定年退職者再雇用制度」を導入し、定年退職者が保有する経験、技術、技能等を活かしながら継続して働く機会を提供しています。再雇用者数は2011年度40名、2012年度49名でした。

■ 安全診断の実施状況

2012年度は、国内10社12工場、海外2工場において5Sを強化した安全診断を実施しました。また、2013年1月には、安全管理者連絡協議会を開催し、労働災害の発生原因(2012年度の発生件数:29件)を抽出し、それを踏まえ2013年度の活動目標・活動内容について協議しました。

労働安全衛生

DAIKENグループでは、「DAIKEN安全基本方針」のもとに、生産活動の基本に「安全をすべてに優先させる」を据えて、労働環境の安全管理を徹底しています。その一環として、定期的な「安全診断」を実施し、各工場の施設・設備、作業環境、作業方法、教育・訓練などの項目について、安全面での取り組みや現場の実態を確認し、事故災害のない労働環境の構築につなげています。

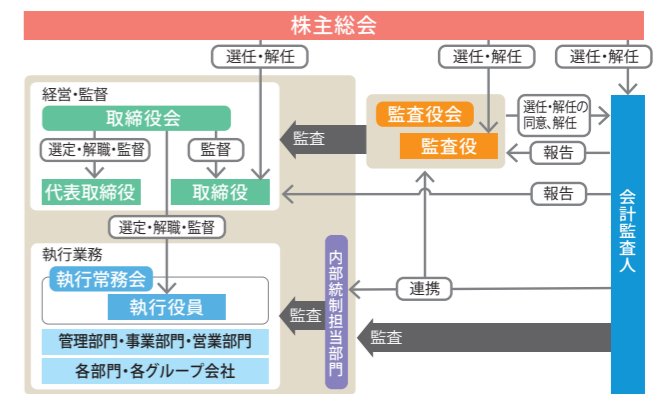
さらに信頼される企業をめざして 透明性の高い経営に努めます。



コーポレート・ガバナンス

企業価値の継続的増大を目指して、経営体制や経営組織を継続的に整備し、必要な施策を実施しています。取締役会は、経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の職務執行を監督。また、取締役会の意思決定の迅速化、監督機能の強化のため執行役員制を採用し、執行役員は各社内規程に従って一定分野の業務執行に従事。業務の執行状況を執行常務会等に報告し、効率的な業務執行に努めています。

▼コーポレート・ガバナンス体制



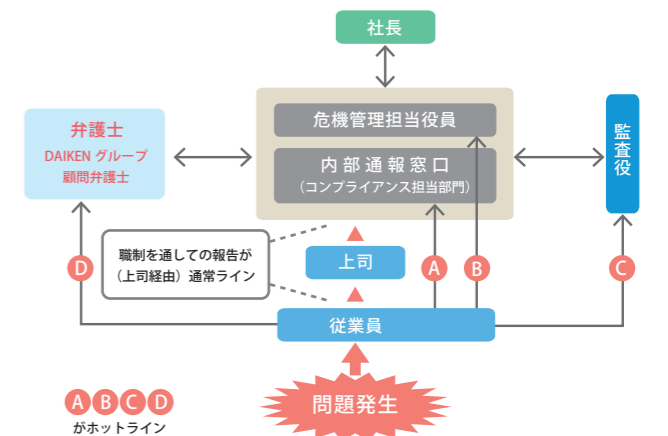
コンプライアンス

DAIKENグループでは、「経営理念」を具体化するための行動指針として「企業行動基準」を定めて、役員・従業員一人ひとりがコンプライアンスにのっとった事業活動を展開しています。

■ 内部通報窓口(ホットライン)

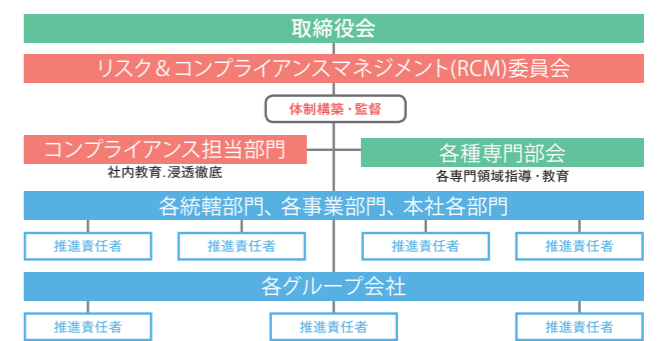
法令や会社規則などの違反の未然防止並びに早期発見に取り組むため、通常の職制を通じた報告が困難な場合の直通報告ルートとして、内部通報窓口(ホットライン)を設定しています。

▼コンプライアンス・ホットラインフロー



リスクマネジメント

危機管理担当役員を委員長とし、経営管理、営業、事業および法務コンプライアンスの各分野の担当役員などをメンバーとする「リスク&コンプライアンスマネジメント委員会」(以下、RCM委員会)を設置しています。RCM委員会ではリスクの洗い出し・評価・対応などの管理体制を有効に機能させるため、各種規程、マニュアルを整備し、当社グループにおけるコンプライアンス、リスクマネジメント推進および課題・対応策の審議・決定を行っています。



企業活動そのものが環境問題につながる—

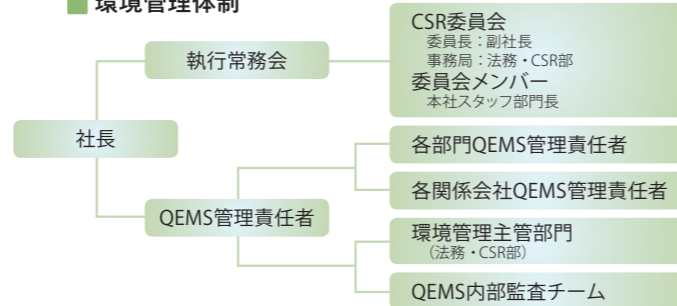
その自覚を私たちは忘れません。



環境マネジメント

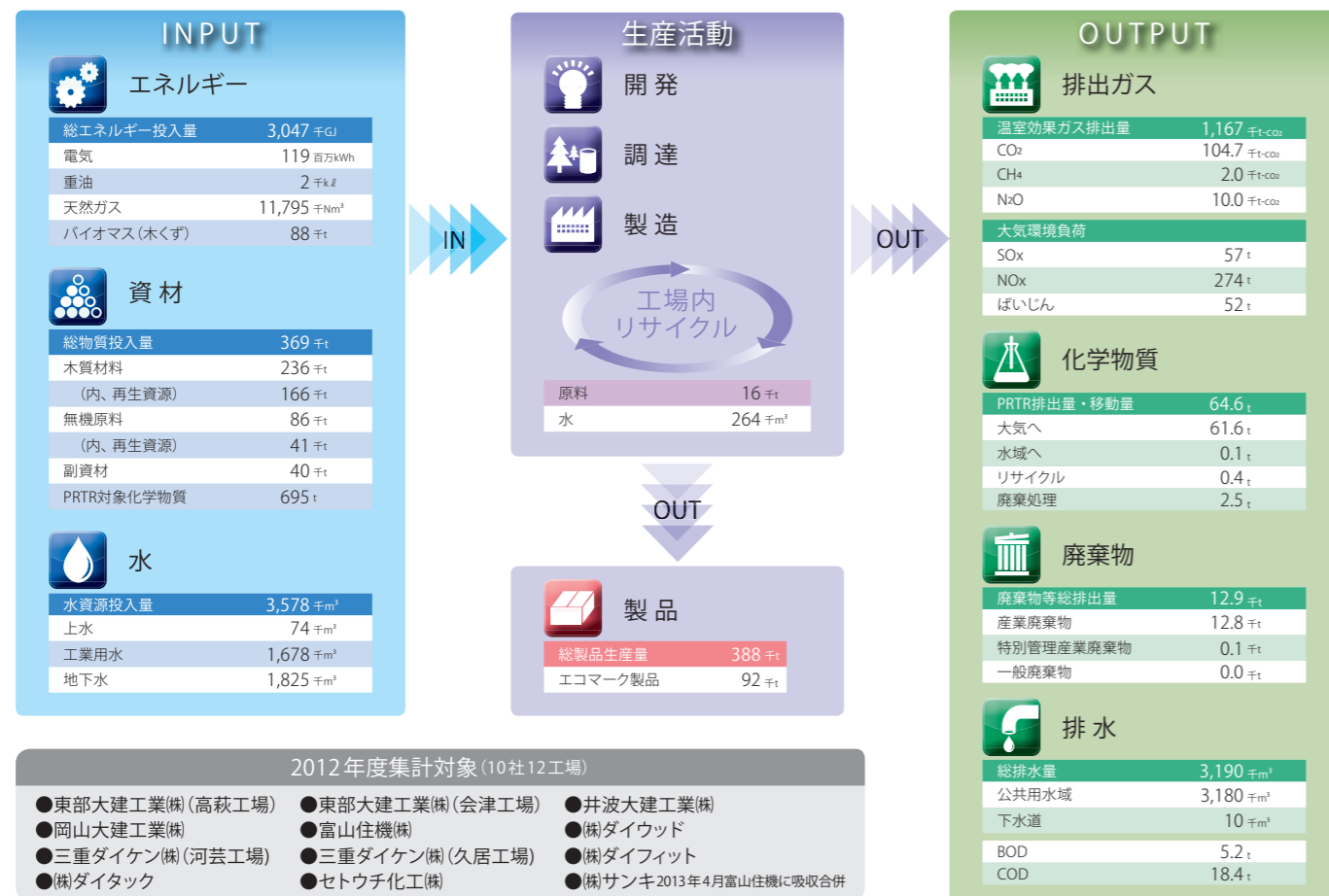
DAIKENグループでは、環境経営はCSR経営の基本と位置付け、品質・環境マネジメントシステム(QEMS)を改善しながらグループ全体で統一かつ効率的に環境活動のレベルアップを図っています。

■ 環境管理体制



生産活動における環境負荷

生産活動における環境負荷の全体像を把握し、その負荷低減に努めています。



中期環境計画(2011年度~2015年度)の活動と進捗結果

2012年度の主な活動実績は、下表の通りです。

【自己評価】: 目標以上 : ほぼ目標達成 : 未達成

取り組み内容	指標	2012年度の目標等	2012年度の実績	評価		
1 環境配慮製品を拡大する。						
①国産材を利用した製品開発を進める。	-	行政との連携強化	・東北復興支援の一環として、次世代林業サミットで東北応援フォーラムを発売。 ・産学連携による、信州F-POWERプロジェクト※1)に参画			
2 環境負荷低減						
1) 温室効果ガス排出量を削減する。 2020年度までに1990年度比25%削減する						
①生産拠点の排出削減	CO ₂ 排出原単位※ ※原単位=排出量÷売上高	2%以上削減(2010年度比) 2.14t-CO ₂ /M円以下	2010年度比 10.6%削減 1.95t-CO ₂ /M円			
②物流・輸送部門の排出削減	エネルギー使用原単位※ ※原単位=使用量÷輸送量	2%以上削減(2010年度比) 46.0kℓ/百万トンキロ以下	0.7%増(2010年度比) 47.6kℓ/百万トンキロ			
③事務部門の排出削減	CO ₂ 排出量	15%削減(2010年度比) 1,840t-CO ₂ 以下	21%削減(2010年度比) 1,710t-CO ₂			
2) 廃棄物排出量を削減する。						
①生産拠点での排出削減	社外埋立量	10%削減(2010年度比)	4,330t	4.6%削減(2010年度比)	4,590t	
②営業・事務部門での排出削減	廃棄物総排出量	10%削減(2010年度比)	1,760t	2%削減(2010年度比)	1,910t	
3) 化学物質の排出量を削減する。						
①PRTR※2)対象化学物質を削減する。	PRTR対象化学物質の排出量・移動量	設備化検討 (2015年度目標12t以下)	・設備化検討、継続 ・塩化メチレンの移動量・排出量は、2010年度同等の57t			
3 生物多様性配慮						
1) 生物多様性に配慮した木材資源の調達を推進する。						
①合法性が確保された木材調達を確実にする。 (仕組みを確立する)	合法性木材の調達率	合法性確保を維持し、証明書を整備する。 (2014年度目標100%確保)	購買管理規程を見直し、合法性木材の証明書の入手を規定した。			
②森林認証材、国産材、植林木、リサイクル材等の調達を推進する。	使用比率	実態把握の仕組み作りと定着 (2015年度目標100%)	・未利用間伐材を含めて、国産材活用を推進。 ・廃材、端材によるリサイクル材使用比率 80%			
2) グリーン調達ガイドラインを定着させる。						
①グリーン調達ガイドラインをサプライチェーンにまで適用し、業務に定着させる。	適用会社のカバー率	実態把握の仕組み作りと定着 (2015年度目標100%)	購買管理規程を見直し、サプライチェーンからのグリーン調達基準に対する同意書の入手を規定した。			
4 環境管理						
1) 環境マネジメントシステム(EMS)を拡充・拡大する。						
①国内拠点のEMS統合	ISO14001認証の統合・拡大	国内のグループ子会社1社を新たに追加拡大する。	2013年2月エコテック株式会社にて認証拡大			
②海外の生産拠点のEMSを構築する。	ISO14001認証の取得	海外の生産2拠点※3)の取得準備 (2013年度中の認証取得)	2012年10月 ダイケンニュージールランド社が認証取得。			
2) 環境法令の遵守を徹底する。						
①グループ全体に環境法令遵守の仕組みを構築し、運用する。	環境監査の計画立案・実施	QEMS内部監査、環境監査等により法令遵守が確認されている。	年2回QEMS内部監査実施			
3) 環境教育を全社展開し、推進する						
①環境e-ラーニングによる教育を推進する。	環境教育の計画立案・実施	階層別、職種別に教育が実施されている。	新入社員研修、新任部門長研修、e-ラーニング等により実施			

※1) 信州F-POWERプロジェクト
長野県、塩尻市、および征矢野建材株式会社が、東京大学や信州大学との産学連携により、林業再生や循環型地域社会の形成、地域の活性化を図る総合的な森林バイオマス資源活用事業。

※2) Pollutant Release and Transfer Registerの略で、化学物質排出移動量届出制度。
有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み。

※3) ダイケンミリス社、ダイケンニュージールランド社

トップメッセージ

事業展開

特集 I

特集 II

活動報告/地球環境のために

CSR活動の取り組み状況

CSR活動の取り組み状況

2012年度のCSR活動の主な活動実績と2013年度の主な取り組みは以下の通りです。

【自己評価】 😊 : 目標以上 🙄 : ほぼ目標達成 😞 : 未達成

取り組み課題	2012年度の計画	2012年度の実施内容・結果	自己評価	2013年度の計画	関連頁	
経営分野	ガバナンス体制強化とコンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> グループガバナンス体制の強化・維持、透明性の向上。(継続) コンプライアンス教育プログラムを体系化。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> 社外ホームページにて適正な情報開示を実施・継続。 社外取締役、監査役、社外監査役の出席のもと、取締役会を開催。 階層別集合研修を継続実施。 e-ラーニング入社5年間受講メニューの計画策定。 建設工事部門での「建設業法」等の研修実施。 	😊	継続実施。	P22 マネジメント
	リスクマネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> BCPを策定し、事業継続マネジメント(BCM)活動に展開する。 海外展開において想定される重要リスクについて現状を分析評価したうえで、対応策を立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> BCP文書の継続更新、新体制での引継ぎ。 国内主要生産拠点の安全診断でBCP項目の診断実施。 災害備蓄品在庫確認・補充。 具体的な案件に応じた各部門レベルでのリスク対応にとどまった。 	😊	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策マニュアルの改定。 4事業、3業務拠点BCPの継続改善。 海外拠点BCPの推進。 海外展開において想定される重要リスクの抽出。 	
	ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	<ul style="list-style-type: none"> 株主・投資家などとのコミュニケーションを促進する。(継続) ステークホルダーに対して、情報を適時、適切に開示する。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> 決算説明会等により、株主・投資家とのコミュニケーションを図った。 主要取引先を対象に営業部のエリア毎に方針説明を継続実施。 社外向けホームページに、IR情報、イベント情報等の最新情報61件を掲載。アクセス数は、2011年度比14.2%増。 	😊	継続実施。	
	顧客・消費者とのコミュニケーションと顧客満足	<ul style="list-style-type: none"> 品質ISOをグループ展開し、消費者目線の品質マネジメント体制を確立する。 海外拠点の品質管理体制を強化する。 品質管理能力に優れた人材を育成する。 製品のトレーサビリティ体制を強化する。 消費者目線の商品開発を推進する。 消費者との接点を拡大し、コミュニケーションを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 内部監査を通じて、グループ全社にてQEMSの有効性向上を図った。 海外展開に伴う品質保証のあり方について、関係部署と協議を開始。 社内の開発担当者、開発担当責任者に力量向上の研修を実施。協力会社に対し、品質レベルアップ研修を実施した。 ユーザー登録を継続実施。登録者数:636名(2011年度)→2,006名(2012年度) 「お客様の声データベース」を社内公開し、利用開始。現在の問合せ内容と回答を、グループミーティングで精査開始。 グリーンリモデル研修会、全国ショールームを活用し、情報発信。社外ホームページの製品情報ページ「空間シミュレーション」に機能追加。エンドユーザー向けポータルサイト「イ!くらしスタイル」を新設。 	😊	<ul style="list-style-type: none"> QEMS規程を経営ツールとして活用できるように業務と一体化した手順書として見直す。 内部監査を通じてシステムの有効活用を指導。 海外事業における販売製品と品質状況の変化を見極め、状況に応じ適宜対応する。 協力工場ごとの課題内容に合わせて指導・教育計画を作成し、実施する。 登録促進策の継続実施。 商品企画に活用し易いように、システムを改修する。 ショールームでの活用事例を集め、社内へ情報提供する。 「消費者目線改革P」での検討を中心に、ものづくりと販売改革に取り組む。 一般向けサイトのメニューページを改定し、欲しい情報にたどりやすくする。 	
社会分野	公正な取引の推進と徹底	<ul style="list-style-type: none"> 下請との取引の適正化を徹底する。 反社会的勢力との取引排除を徹底する。 知的財産権保護の重要性を浸透させる。 グリーン調達を徹底し、CSR調達への展開を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部門に対し、発注書面について再調査実施。下請先への発注書面の整備を完了。 新規契約書に条項を加え、既契約分は新しい契約様式での再契約を推進。既存取引先は、98%、新規取引先は、ほぼ100%の締結率。 関係部署に対し、特許交流会、講習会等を通じてリスク啓発、保護活動を推進。 販売・製造国を対象とした「DAIKEN(ロゴ)」「TEKWOOD」の海外商標出願を推進。 グリーン調達基準を改定し、購買管理規程と連動して運用するようにした。 	😊	<ul style="list-style-type: none"> 取引先との契約締結を継続的に確認する。 全社開発部門、市場開拓部門へのリスク啓発、保護活動、e-ラーニング研修継続実施。 海外展開部門と協議のうえ、海外商標対応計画の明確化と実施。 現状の運用レベルを把握した上で、実行計画を策定し、推進する。 	—
	人材育成・人材保護・良好な職場環境作り	<ul style="list-style-type: none"> 心身とも健康で働きやすい職場作りを推進する。 過重労働、長時間労働を抑制する。 育児休暇取得を促進する。 法定障がい者雇用率(1.8%)を維持する。 管理職に対し、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントの教育を実施する。 総合的な人材育成プログラムを再構築する。 女性社員の適材適所への登用を進める。 安全診断をレベルアップを図り、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノ-残業デー(火、木曜日)は継続実施。 平成24年度の育児介護休暇の取得は、5名。 障がい者雇用の為の求人活動の継続実施。 新任管理職を対象に、e-ラーニングによる教育を継続実施。受講者21名。 外部講師の指導により営業部門責任者の育成と強化を実施。 女性社員へ管理職としての指導育成を強化。 国内10社12工場、海外2工場で5Sを強化した安全診断を実施。29件の労働災害が発生。国内2工場で休業災害発生。 安全管理者連絡協議会を実施し、労災の発生原因を抽出。 	😊	<ul style="list-style-type: none"> 「ノ-残業デー」を厳正に実施。 育児休暇取得の推進。 障がい者雇用を継続し、2018年度の精神障害者雇用の義務化に対応していく。 e-ラーニングによる教育の継続実施。 新任役職者アカウンティング研修の企画立案 継続実施。 安全診断は、現場診断に重点を置き、監査方式とし継続実施する。 指摘事項に対する是正確認のための診断を実施する。 	P21 従業員と ともに
	地域社会との交流や貢献活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> エコ素材の生産・供給を通じて震災復興に貢献する。 伊藤忠グループ東日本大震災ボランティアに参加する。 生産拠点と地域のコミュニケーション・交流を活発にする。 地元の森林組合の協力の下、社有林地にて植林活動を継続実施。 マレーシアにて植林活動を継続実施する。 生物多様性の保全活動の一環として、「ボルネオ島の熱帯林再生及び生態系の保全プログラム」に継続参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅・産業資材・ビル・マンション市場を横断した活動により、市場の変化や要望に対して柔軟に対応できる体制を整えた。 社内募集、参加社員の活動支援。年間合計6名参加。 地域に密着したりモデルフェア・祭り等を開催。(井波、久居) ウォーク大会を企画し、清掃活動を実施。(井波、セトウチ化工) 工場見学会を継続実施。 地元の森林組合の協力の下、植林体験見学会を実施。(和歌山) 二次植林面積72ha完了。 マレーシア国立農科大学奨学金に10万リングドを提出。 継続参加。 	😊	<ul style="list-style-type: none"> 現地拠点の強化継続。 継続実施。 各工場を中心にモデルフェア・工場見学会、ウォークラリーなどを開催し、地域コミュニケーションを深める。 社有林(岡山)の有効活用も検討する。 継続実施。 継続参加。 	P19 P20 地域社会の ために
	環境分野	<ul style="list-style-type: none"> 中期環境計画(2011年度~2015年度)にて目標展開。 	<ul style="list-style-type: none"> P24に取り組み結果を記載。 	😊	継続実施。	P23 P24

会社概要 (平成25年7月) ー詳しくは、当社ホームページをご覧ください。

商号	大建工業株式会社 DAIKEN CORPORATION
設立年月日	1945年(昭和20年)9月26日
資本金	131億5,003万9,080円
決算月	3月
ホームページ	http://www.daiken.jp/
本社および事業所	<p>本店 富山県南砺市井波1番地1</p> <p>本社大阪事務所 大阪市北区堂島1丁目6番20号</p> <p>東京事務所 東京都千代田区外神田3丁目12番8号</p> <p>住まいのショールーム 札幌、仙台、東京、金沢、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡</p> <p>海外事業所 上海、シンガポール、インドネシア</p> <p>国内生産工場 東部大建工業(株)(茨城県高萩市、福島県会津若松市) 井波大建工業(株)(富山県南砺市) 岡山大建工業(株)(岡山市) 富山住機(株)(富山県砺波市) (株)ダイウッド(三重県伊賀市) 三重ダイケン(株)(津市) (株)ダイフィット(鳥取県倉吉市) (株)ダイタック(岡山市) セトウチ化工(株)(岡山市)</p> <p>海外生産工場 大建工業(寧波)有限公司(中国) DAIKEN NEW ZEALAND LIMITED(ニュージーランド) DAIKEN MIRI SDN.BHD.(マレーシア) DAIKEN SARAWAK SDN.BHD.(マレーシア)</p>

2013年3月末現在

